

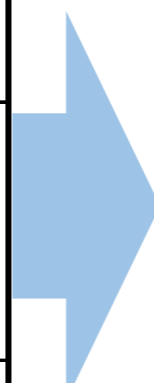
2020年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 (スタジオアルテ生活介護・大岡分室) 作成日時 (令和2年 10月26日)

代表	施設長	本部
印		

H30年度 改善への取り組み	保護者のニーズ、利用者の個々の活動の記録を基にして、個別支援計画を作成した。
今年度の施設目標	成人支援として、本人とご家族のニーズからしっかり聞き取り、個別支援計画に反映していく。 職員が心身ともに元気でいられる環境を整える。

項目	事業所内評価を踏まえた上での問題点	事業所内評価を踏まえた上での改善点
環境・体制整備	・個別化されたエリアが、利用者の変化・環境などによって、最適な状態でない状況が生じ、安心で、安全なサービスの提供ができていない。(施設内や、車内)	・個々の利用者の特性を考慮した再構造化を行い、活動エリアの見直しをする。 ・狭い車内等の環境設定、共有部分の時間差での使用等の配慮が必要。
業務改善	・支援者のスキル、経験値、自信や感情などによって対応できる支援と、難しい支援がある。	・すべての支援者が、利用者に対して、統一した支援ができるよう、提示方法の見直しと、ミーティングの実施等、すべての支援者が理解できる形で、伝える。 ・得意不得意をカバーし合える、関係性を築く。
適切な支援の提供	・個別支援計画に沿った支援をしているが、記録を取る、新しいことに挑戦する、改善・見直しをしたうえでの再挑戦など、追いつかない部分が多い。 ・施設内でのスケジュールの提示による、見通しの伝え方に比べ、外出・送迎時の見直し伝え方が、不明瞭になった。	・個別支援計画に対する、自立課題シートを作成し、アセスメントを行うことを、個別支援計画が切り替わった時点で、早急に行う。 ・外出・送迎時の見通しの伝え方を、個々の特性を考慮したうえで、随時伝えていく。
関係機関との連携	・保護者との協力が取れていないため、施設内でのような支援が行われているのか伝わって伝わっていない。 ・計画相談を通じた話し合いなどを行う機会がなかった。	・保護者との協力を強化する。(うまくいかない部分は一緒に考えていく。) ・施設での様子を保護者の方に伝える機会を増やす。(お便り、面談、映像での提供など) ・計画相談との連携
本人(家族)への説明責任等	・本人への個別支援計画やサービス内容に関する説明は難しい。	・保護者への説明は、時間をかけて面談時にしっかり伝える。簡単なことは、顔を合わせた際にお話する、連絡帳を利用するなど、コミュニケーションを密にする。 ・本人へは、コミュニケーションの支援を取り入れ、選択の機会を設定するなど、日々の活動の中で、伝わっているのか? いないのか? 見極める。
非常時等の対応	・緊急時対応、虐待防止、感染症についてのマニュアルの周知がされていない。 ・利用者の発作時の対応に不安がある。 ・避難訓練を週一で個別で行う予定を立てていたが、忘れてしまう。 ・利用者の突発的な行動による事故が無ならない。	・マニュアルの保管場所、内容をミーティング時などに共有する機会を設ける。 ・利用者の発作があったことを想定した訓練を行う。(記録・連絡など) ・個別の避難訓練と、月に一度は全体での避難訓練を行う。 ・関わるすべての利用者の安全を確保し、報告。今後同じことが起きないように、対応策を投じる。



分析検討してみたの事業所の強み
<ul style="list-style-type: none"> ・以前よりも明らかに良くなったこと(本人にあったスケジュールの提示方法が確立された方、カードを使った要求ができるようになった方、落ち着いた時間が増えた方、変化に動じなくなった方、等)が目に見えてわかる場面がたくさんあること。 ・個々の利用者的大まかに活動内容が安定し、基盤となる日常的活動が送れるようになったこと。

分析検討してみたの事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の特性に合わせたエリア設定を見直す。 ・すべての利用者が安心して活動できる空間を作る。(鍵の取り付け、境界設定等。) ・法律、制度を学ぶ機会を設定する。 ・保護者との協力を強化する。 ・職員の仕事の偏りが大きい、だれも手を抜いているわけではないため、分散することが難しい。 ・仕事上で、カバー力が試される場面が多く、気が休まらない。(支援者のミスが直接、利用者の困りごと、不穩に直結してしまう。) ・支援関連のシートや書類をすべての職員がしっかり記入できるようにする。 ・計画相談と連携を図る。(将来を見据えた支援も取り入れる。) ・次の日の準備をする時間がない。現在は、送迎前後の短い時間を利用して自発的に行われている。おそらく、時間外になってしまっている。 ・来所持に受け入れる職員がいる日と、いない日があり、いない日は、送迎スタッフ自らが、支援者の目が離れてしまう利用者がある。

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の活動エリアの見直し、スケジュールの提示の仕方等、施設全体の再構造化を行う。 ・利用者への見通しの提示方法の見直しと、徹底。 ・職員の仕事の見直し。勤務時間内に収まるように、内容、時間配分の見直し。無理のない体制を作る。 ・親やチーム間の協力を重視する。(細かなニーズの聞き取り、施設での活動など、見えない部分の情報提供をそれぞれが望む形で提供できるようにする。) ・ミーティングを開催し、支援内容にばらつきが出ないように、職員間のコミュニケーションを増やす。

自己評価を行っての事業所としての感想など
<p>・複雑なシフト、多岐にわたる送迎先、日々異なる出勤先。利用者への配慮からの、時間差での入室。松本⇄大岡の往復。門扉の施錠。等々、大岡分室ならではの絶対にミスが許されない現場で、全職員、大きなミスすることなく、毎日対応できている事に感謝します。そして、ミスをすると絶対に良くないことが起こるプレッシャーも大きいです。職員間のコミュニケーションがとても大切だと感じています。今までは、施設内での活動、安全、仕組み、等々を整える事に集中してきたと思います。それ以外に余裕がなかった気もします。これからは、少しづつ外とのつながり(保護者、計画相談、地域、等々)も視野に入れられるようにしたいです。</p>

来年度の施設目標	・利用者、保護者、職員、関わる全ての方々との連携をしっかりと、それぞれにあった形・手段でコミュニケーションをとる中で、今日の安全で落ち着いた活動を無事に終え、明日につなげる。
----------	---